

道博協ニュース

発行 昭和54年12月20日
 発行所 北海道博物館協会(事務局)
 札幌市中央区宮ヶ丘3の1
 札幌市円山動物園内
 (011)-621-1426

第10号

第十八回北海道博物館大会終る

第十八回北海道博物館大会は、北海道内の各博物館、園及び相当施設に勤務する職員並びに関係者が集まり、当面する課題と今後のあり方を研究討議し、地域における社会教育の振興に寄与することを大会の趣旨とし、去る六月二十八日(木)・二十九日(金)の両日道立近代美術館において道内各園館から九十五名が参加し、成功裡に開催されました。

大会における討論、意見等詳細については、後日発行の大会報告書によりお知らせしますが、取りあえず概要を報告します。

第一日

とのテーマにより次のとおり行われた。

午前九時十五分から開会式

発表者

一、のぼりべつクマ牧場

園の調査研究活動をどう進めるか」とのテーマにより次のとおり行われた。

二、釧路市立郷土博物館

発表者

三、室蘭市青少年科学館

一、北海道開拓記念館

館長 寺島 敏治

資料調査課長 関 秀志

館長 内海 量夫

二、おびひろ動物園

助言者

園長補佐 中村 悟

一、(社)日本動物園水族

助言者

館協会

一、北海道教育委員会

会長 川合豊太郎

社会教育主事 福司 重

後一時より会場を分けて分科

二、北海道立近代美術館

会を行った。

普及課長 笹野 尚明

第一分科会は、「博物館、

二、北海道立近代美術館

園の経営管理をどう進めるか」

司会者

普及課長 笹野 尚明



三、網走市立郷土博物館
 館長 米村 哲英
 司会者
 北海道立三岸好太郎美
 術館
 館長 工藤 欣弥
 その後、午後四時から北海道博物館協会総会が行われ、議長団に北海道立近代美術館の武田厚氏及び浦河町立郷土博物館運営協議会会長黒崎康雄氏を選出し議事に入った。

最初に、昭和五十三年度事業報告、収支決算報告、会計監査報告がそれぞれ承認され、

次に昭和五十四年度事業計画、収支予算、会則の一部改正、

役員改選（別掲）、負担金の改定、博物館等建設指針の作成、

が原案どおり決定された。また、明年の第十九回大会開催地を浦河町に決定し、第一

日の日程を終了した。

なお、午後六時から会場を緑ヶ丘に移して懇親会が開か

れ、なごやかに親睦を深めた。

第二日

午前九時から全体会議が行われ、議長団に昨日の総会と同

じく武田、黒崎両氏を選出した後、前日の第一分科会及び第二分科会の発表討論の報告

がそれぞれの司会者であつた北川芳男氏及び工藤欣弥氏

から行なわれた。

続いて、今回の大会から実施することになった館園長会

議、学園職員等研修会がそれぞれ会場を分けて行われた。

午前十一時から、この大会の最後の日程である施設見学

に移り、雪印乳業（株）史料館の見学を行った後、同館で

新鮮な牛乳、アイスクリームを賞味し、昼食後中川会長より

散会の挨拶があつて二日間の日程をとどこおりなく終了した。

道博協会長就任にあたって

去る六月二十八・二十九両日北海道立近代美術館で開催された第十八回大会と役員改選において引き続き二年間会長の任に当ることになりました。

過去二年間道博協の運営に微力ではありますが努力してまいりましたが、この間会員の方々と直接接する機会も多く持つことができ、そのなか

で痛切に感じたことは、博物館運営の諸々の障害の多いこと、そして博物館活動のむづかしさを身にしみて感じただけであります。

近年「地方の時代」といわれ国民志向が地方の博物館に動いていることは事実であり、それだけに地域住民の郷土文化に対する期待も大きいものがあります。

しかしながら財政事情等により、設備面、地域内の文化財の収集、スタッフの不足などによる展示技術、教育普及活動等諸々の問題が山積してあるのが現状であろうと思えます。

これらの諸問題に対し、会員一人一人の智慧を結集し一つ一つ解決していくことが最も良の方途と考えており、これから二年間引き続き北海道の博物館等の発展に皆様方の力を添え得ながら頑張ってい

りたいと考えておりますのでご協力ご援助を賜りますようお願い申し上げます。

中川 敏

八雲町郷土資料館の展示について

八雲町郷土資料館

八雲町郷土資料館

八雲町の郷土資料館は鉄骨二階建てで、建築床面積七六・九三二平方メートル、その内の二九一・九八〇平方メートルが展示面積である。この展示空間に、できるだけ多くの資料を展示し、実物資料を媒体として、大人から子供まで、だれでもが先人の血と汗とで築き上げてきた郷土の歴史、文化等を理解でき、学習できるレクリエーションの場として、郷土色の豊から展示をできるだけ作り上げようと、北海道開拓記念館などの助言を受けながら、次のような経過をへて展示をおこなった。

まず最初に、担当職員が、



この草案をもとにして、各テーマごとに内容を調べなおし、八雲のあゆみを作り上げた。

この二つを再度組合せて、展示に使用する資料数、各資料の展示方法、展示に使用する解説文、解説図等を記載した展示構想を作成して、これを展示業者に提示した。

この提示によって、業者に八雲町の歴史と郷土性、さらに、地域住民の学習の場としての展示に重点をおきたいことを十分に理解してもらった。

とができ、郷土色豊かな展示構想を作成することができた。

展示の重点は、展示技法をできるだけ複雑にしないで、資料そのものを直接展示し、展示資料のスペースを十分にとり、展示資料数を多くする。解説文はできるだけ少なくし、写真、解説図を多くして説明するようにする。資料と見る人との間に境目をできるだけさけるために、ケース内展示を少なくする。資料相

互の区別とテーマが不鮮明にならないように、明確なコーナーを作成する。展示物の展示が容易にできるようにすることに努めた。

これらの点を考慮しながら、具体的に次のように展示をおこなっている。

展示室は、落ち着いた感じをだすために、黒色系の色で統一しており、各テーマを明確にするために、ユニット展示ブースと云う展示台を使用している。

このユニット展示ブースは、天井部、壁部、ステーション部の字状に組み合わさった長さ五メートル、高さ二・五メートル、幅一・八メートルの大きさで、天井部と壁部は、三〇センチメートルの格子組にされており、この格子部に照明具、解説情報、資料等を展示し、ステーション部分は、高さ二〇センチメートル、その上に、二〇センチメートルのガラスをはめたフェンスで囲って、資料を展示しているの

で、一つのユニット展示ブースが、一つの展示空間をつくりだし、テーマを明快にしていると共に、ステーション部分に展示物を置くだけなので、資料の入れ替えが容易にできるようになっている。

この展示台を、長方形の展示室の左右の壁に三基づつ設置している。

新入館園紹介

本年度に入って道博協に入会しました置戸町郷土資料館、上富良野町郷土館の二館を紹介いたします。

置戸町郷土資料館

常呂川の水源の町置戸は、明治末期に開拓の歎がおろされて以来七十年余りがすぎました。この開拓の歴史をはじめとして、置戸町の自然などを資料として収集し、活用しようとする郷土資料館が設置されています。

昭和四十二年に町立図書館

展示室中央部分には、開拓居住を復元し、その中に、生活用具を展示している。この開拓居住を復元したことにより、展示室全体を一望できないようにして、歴史の流れどおり、順次テーマを見ていくような、リニア形の道線を作り上げている。

解説文、解説図等は、三〇センチメートルの方形を基準として、大きい物は、三〇センチメートルの方形に切って展示しており、展示全体は、資料収蔵に近い展示になっていると共に、展示構想及び解説文などを、担当職員がある程度おこなったことにより郷土性が表われた展示になったと考えている。

資料収集・保存を当面の課題としています。

資料館では七名の郷土資料館協議会委員を委嘱し、運営についての審議や事業の実施にあたっては、特に資料の収集については委員が中心となって進められています。

現状では収集資料の整理作業までは手がまわりきらず、とりあえず展示されている資料についてはカードによる記録票が作成されています。資料の整理は今後の館活動のためにも最低必要なことなので、専任の職員がいないうる現状では困難です。



置戸町では図書館や公民館等の施設を中心とした教育活動が進められていますので、資料館におきましても小中学生を中心とした郷土資料館友の会を組織して活動しています。現在会員は二十数名ですが、毎月一回の例会を開き、ワラジづくり、昆虫採集・標本づくり、石器づくり等の体験学習を中心としています。小規模資料館の機能のひとつとしては、今後この種の活動は重要なものとなると考えます。

集が中心ですから本格的な展示はおこなわれていませんがなんとかして特色ある資料館づくりをしたいものと考えています。その柱としては、置戸町は木材によって発展した町であり、道内で最初に宮行斫伐事業がおこなわれたり、森林鉄道が敷設されたことなどから、林業関係資料を重点としたいと考えています。また町内には黒曜石の原産地がありここから産出する豊富な黒曜石を使用して大規模な遺跡がのこされており、多量な石器が発見されることから、これらも重要な資料であると考えます。

電話 (〇一五七五)

二一三三一三

ともあれ小規模な郷土資料館として住民の多様な要求にどうかたえるかがこれからの課題といえます。

所在地 常呂郡置戸町字置戸

二五番地

上富良野郷土館

上富良野町は、明治三十年に三重県からの団体移住によって初めて拓かれましたが、それから僅か二年後に旭川・上富良野間に鉄道が開通したこともあって急速に発展し、明治三十六年には富良野以南(富良野・南富良野・占冠)を、大正六年には中富良野を分付しました。

上富良野町郷土館では、開拓当時のうつ蒼とした原始林を通り、新天地開拓の希望と不安を胸に三重団体の先発隊八名がニレの木の下で初めて野宿した風影をパノラマで表現し、かみふらのが拓かれてから八十年の歴史を物語る導入部としています。

大工・左官で組織している技能士会の奉仕で再現) しました。

本町の展示の特徴は、学童の「郷土の歴史」の学習に応えるために、年度毎に年表をパネルに表示し、パネルの中にはその当時の品物(例えば初めて電気がついた年は、タングステン電球を)を陳列し年表と資料が一致するように工夫してみました。

また、かみふらのの歴史は開拓が二度あったと言われるように、大正十五年の十勝岳大爆発による災害は、多くの人命を失ったばかりでなく、血と汗と涙で耕した田や畑を大量の土砂と大木で埋つくし再興は不可能であるといわれた。しかし、当時の村長吉田貞次郎は、先人の築いた労苦の結晶を失なうことはできないと言って立ちあがり、想像を絶する辛苦を乗り越えて、今日の美田に復興させたのです。この十勝岳の大爆発の記録フィルムが名古屋で発見され



ましたが、それにナレーションをつけてビデオにし、館内にセットすることができました。郷土館の建設は、日に日に失なわれていくかみふらのの歴史を伝える貴重な資料を保存しようとして、昭和五十年に、町文化財保護委員が中心になって「郷土資料館建設促進期成会」が結成されて運動が急速に進み、昭和五十二年の上富良野町開基八十年記念事業として、道振興補助金を受けて建設することになりました。この建設に当っては、町内

外有志の方々から多額の寄付金が寄せられ、寄付金の総額は三千二百万円にも達しております。

委員を通して住民の意見を聞き、企画展示、事業の推進を行なっています。

入館料は大人百円、子供五十円で、休館日は毎週日曜日と月曜日の午後、祝祭日となります。

総事業費は約一億円で、面積は本館が四七三平方メートルで鉄筋コンクリート造二階建て、第二展示室は鉄骨造りで百平方メートルですが大型農機具を展示してあります。

館の運営には、十名の運営

電話 (〇二六七四五)

富区六

所在地 空知郡上富良野町西

電話 (〇二六七四五)

五〇三七

日本博物館協会顕彰者決まる

昭和五十四年度日本博物館協会顕彰者として、北海道支部から次の二名の方が受賞しましたのでお知らせします。

- 三浦徳四郎 規程第二号
- 夕張市炭鉱資料館館長
- 三岸 節子 規格第四号
- (道立三岸好太郎美術館)

なお、顕彰規格の内規として左記の点が明確になりましたので、あわせてお知らせします。

一、日博協の顕彰は非会員

四、顕彰者の対象期間を、

理事 内海 量夫

岩原 市男

米村喜男衛

を対象としない。

二、細則第五条の事業対象の解釈は、当該事業が全国的視野に立って行なわれたものをいう。

なお、この場合大学の博物館学講座までは含まない。

三、規程第一条第四号該当の寄附金の額、資料の許価額は、百万円以上を対象とする。

左記の場合一年間とする。

(申請/申請までの間)

・退職者

・故人

・館園に対する資料の寄贈者

新役員紹介

本年度は役員改選期でありましたが、過日開催された総会において次の方々が選出されましたので、紹介いたします。

なお、学芸職員部会代表の二名の理事の方については、今大会日程の中の学芸職員等研修会で選出の予定でありましたが、時間の関係上未決定であります。従って、本年度中に開催予定の学芸職員研修会で選出されるまで、矢野、武田両氏が留任となります。

監事 柴田 健治

小樽市博物館館長

室本 清

雪印乳業(株)史料館館長

顧問 片岡 新助

元阿寒和琴博物館館長

静内市安東一丁目

武内 収太

五稜郭タワー史蹟館館長

稚内市青少年科学館館長

工藤 欣弥

道立三岸好太郎美術館館長

三浦徳四郎

夕張市炭鉱資料館館長

寺島 敏治

釧路市立郷土博物館館長

網走市立郷土博物館館長

北海道開拓記念館学芸部長

米村 哲英

岩原 市男

岩原 市男

岩原 市男

会 員 の 異 動

入 会

。団体 遠軽町郷土館

紋別郡遠軽町西町一丁

目二番地

置戸町郷土資料館

五五番地

常呂郡置戸町字置戸二

退 会

。個人 舛田 健

。個人 川合豊太郎

小樽市祝津二丁目

上富良野町郷土館

空知郡上富良野町西富

区六

。個人 舛田 健

。個人 舛田 健

。個人 舛田 健

。個人 舛田 健

。個人 舛田 健

。個人 舛田 健

。個人 舛田 健

。個人 舛田 健

。個人 舛田 健

。個人 舛田 健

。個人 舛田 健

。個人 舛田 健

。個人 舛田 健

ヨーロッパの動物園を たずねて (その1)

円山動物園 金 田 寿 夫

世界の動物園数は約八百、てみます。

その形態、動物数、運営方針などはさまざまですが、いろいろな分野で参考になることが多く、機会あるごとに、一つ古典的なものがあり、戦火つても多くの博物館相当施設をおとすれることにしています。

昨年夏、短期間でしたが、ヨーロッパ六ヶ国、十園館の動物園を視察する機会を得たので、アメリカの動物園と対比しながら概要について述べ

とともに復興し、これを機会に動物展示誌の統一・更新

（放棄式・動物地理学的展示等）、最新の設備をほこる動物舎の建設・動物の積極的蒐集等で世界有数の動物園に交身しています。

ヨーロッパ動物園の共通点としては、比較的狭い敷地（十〜二十ヘクタール）にもかかわらず、芝生、植込み、樹木、流水などを利用して、公園的要素の取入れに力をつけていることで、なかでも、西ベルリン、バーゼルの造園技術はすぐれています。また、自然保護の観点から、希少動物の繁殖のため、動物の貸借が動物園間でおこなわれ、プランケンデール、ホイツブスネード、スリムブリッジのように、動物供給センターとしての繁殖機能に重点を置いた動物園も各地にみられるようになりました。

教育活動については、ロンドン、アムステルダム、バーゼルのように教育専従者をお

いている園もありますが、動物プレート、教育用パネル、子供の国運営、ボランティア組織、学校との連携プレーなどのめん、アメリカのほうに優れているように見受けられました。

飼育動物については、アメリカに植民地をもっていた関係で、オカビ・ボンゴ、コビトカバなどの飼育数が多く、飼育動物の種類、数も全般にアメリカよりも多いようです。しかし、動物園間の飼育数の過当競争は過去のものとなり、最近では、科学的な動物飼育、希少動物の繁殖、教育活動にポイントを置くのが世界的な傾向となってきました。

。事務局をお引き受けしてから早や二年を経過しました。今年役員改選期でしたが、事務局長の異動もあり得ましたが、引き続き事務局長を担当

事務局長より

。本年度の刊行物として作業を進めておりました昭和五十三年度北海道博物館協会館等現況は、発行が遅れ会員の皆さまには大変ご迷惑をおかけしましたが、過日各会員あて送付いたしました。不慣れのため誤り等があることと思いますが、活用していただければ幸いに存じます。

。団体会員及び個人会員で、本年度の負担金を未納の方がおりますので、早目に納入されますようお願いいたします。